

鎌高新聞

発行 神奈川県立鎌倉高等学校 校長室

令和4年8月18日 臨時号

皆さんのライフステージはどうなるのか？！

アメリカの発明家、未来学者であるレイ・カーツワイルは、2005年「特異点は近い」と宣言し、近い将来の2045年には人工知能が人間の頭脳を超える時(シンギュラリティ)が到来すると予想しました。シンギュラリティ(Singularity)とは英語で「特異点」を意味します。「人工知能(AI)」が人類の知能を超える転換点(技術的特異点)、または、それにより人間の生活に大きな変化が起こるという概念のことです。他にも彼は数多くの予想をしていますが、その一例としてVRメガネ、家庭用ロボット掃除機、無人偵察機、医療用ナノマシンなどの出現があげられます。

2014年、イギリスのオックスフォード大学准教授マイケル・オズボーンが『雇用の未来』という論文を発表し、世界に衝撃を与えました。この論文では、アメリカ労働省が定めた702の職業をクリエイティビティ、社会性、知覚、細かい動きといった項目ごとに分析し、アメリカの雇用者の47%が10年後には職を失うと結論づけたのです。

その論文で10年以内になくなる職業として電話を用いた販売員(テレフォンアポインター)、保険事務員、時計修理工、データ入力係、スポーツ審判などが上位に記載されています。ロボット化、プログラム化が進む職業は、完全に人が携わらなくても、大幅に携わる人は減ることになります。

2016年、イギリスのロンドン・ビジネススクールのリンダ・グラットン教授の『LIFE SHIFT - 100年時代の人生戦略』を出版し、世界各国でベストセラーとなり、人生100年時代のライフステージへの転換が示されました。



これらの宣言、論文、著作は、今後の未来に大きな影響を与えていました。人生100年時代を生きるさんは、保護者や教員の生きてきたライフステージと異なる人生を生きていくことになります。

リンダ・グラットン教授は、従来の「教育を受ける」「仕事をする」「引退して余生を過ごす」という3段階のライフステージではなく、大きく転換するといわれています。皆さんと同じ時期に同じことをするステージではなくなり、一人ひとりが違った働き方を見出し、人生のイベントの順序も異なってきます。自分にとって理想的な人生を追い求めることになります。また、無形の財産(例えば人

間関係)や、活力の源になる心身の健康、変われる力が大切になると語っています。

経済産業省は、これから的人生100年時代に「社会人基礎力」が必要と唱えています。この社会人基礎力は学習指導要領や教科書には記載されていません。人生100年時代の社会人基礎力とは、「これまで以上に長くなる個人の企業・組織・社会との関わりの中で、ライフステージの各段階で活躍し続けるために求められる力」と定義されています。

しかしながら社会人基礎力は学校で直ぐに学ぶことはできません。きっと高校で生きる力を学ぶことが、社会人基礎力の基礎に繋がると考えています。そこで本校では、これから的人生100年時代を見据え、いかに「生きる力」を身につけさせるかを教育課題として考え、カリキュラム編成やキャリア教育などの教育活動を開拓しています。

皆さんは、高校の次の段階はどう考えていますか。それは一人ひとりの生徒によって異なりますが、本校の場合、多くの生徒は大学に進学していきます。大学で学んだこと、大学や専門学校で学び取得した資格で一生食べられる時代ではなくなってきています。また、大学後、就職したとしても、その会社や仕事を一生続けていける時代でもありません。

高校では、ICTやグローバル教育を謳っている学校を数多く見ることができます。パソコンを用いた教育や海外研修を取り入れた学校など、各校色々な教育が展開されています。本校でも理数探究基礎や情報、歴史総合、英語などの教科科目で導入しています。また、海外研修旅行はコロナの関係で訪問することができなくなっていますが、海外の学校とオンラインで交流したりしています。既に、社会ではICTや英語は一般的なスキルの時代になっています。

社会人基礎を育成することは「生きる力」を育成することに繋がります。「生きる力」は、平成8年の中教審の答申において「我々はこれからの中学生たちに必要となるのは、いかに社会が変化しようと、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力など自己教育力であり、また、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性であると考えた。たくましく生きるために健康や体力が不可欠であることは言うまでもない。我々は、こうした資質や能力を、変化の激しいからの社会を、「生きる力」と称することとし、知、徳、体、これらをバランスよくはぐくんでいくことが重要であると考えた」と記され、教育の新たな目的の一つとして上げられるようになっていました。保護者や教員が経験したことのないステージに、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力など自己教育力が必要であり、本校で身につけて欲しいと思っています。